

■ VISTA 5 ユーザーレポート

株式会社京都放送 様

VISTA 5

Bスタジオ・サブをVISTA 5 - 42 fader 国内1号機で更新



■ KBS Bスタジオ・サブ

株式会社京都放送
放送技術局 制作技術部
森田 淳

Bスタジオ改修にあたって

昨年3月のDスタジオ・サブの改修に引き続き、同年11月にKBS京都のもうひとつのTVスタジオであるBスタジオ及びサブの改修を行いました。Bサブは月曜から金曜、レギュラー番組として午前の生ワイドと夕方のニュース番組を制作し、他にも収録番組の制作、さらにBスタジオに近接したKBSホールでの生番組や収録番組の制作等、多目的サブとして活用しています。そういった意味も含め様々な場面を想定したサブを構築する必要がありました。またサラウンドへ

の対応に関しては賛否両論あったのですが、この更新のタイミングでシステムだけでも対応させておく必要があるだろうと言うことで、サラウンド対応も考慮に入れた改修を行いました。

音声卓の選定

昨年3月更新のDスタジオ音声卓の選定の際、「両サブは出来る限り同様のシステムで」という方針が決まっていたのと、コストパフォーマンス、操作性等トータルで考えた場合 Vista 5 しかないだろうということで、Bサブも Vista 5 を第1候補に考えました。問題は30フェーダーで大丈夫だろうか？と言う点でした。私のようにアナログ卓にどっぷりと肩まで浸かった人間にとって、同時に扱う素材はレイヤーを使わずに出来

るだけ表に出しておきたいし、特に生放送時においてオペレートミスを犯すリスクを軽減できる。ましてBサブでの番組制作はDサブにおける番組制作と比較しても比べ物にならない程バラエティーに富み、扱う素材数も多いため、30フェーダーでは少し心許ないと感じていました。ならば他のVISTAシリーズを選択肢に入れるか？でも予算が・・・と思案していた矢先、制作技術部長がSTUDERのホームページで「Studer Vista 5- 42-fader version」と見出しのついた記事を発見！これぞまさに「渡りに船」、早速STUDERジャパンに確認をとると、「確かに42フェーダー仕様をNABで展示するようですが、11月に納入できるかどうかは微妙です」とのこと。「それならそのNABで展示した



■ 42 フェーダー・デスク国内1号機



■ 操作面の高さが揃っている特注デスク



■ デスク右手にポン出し機器を配置



■ 2007年3月に更新したDサブのVista 5

品でもいいからとにかく42フェーダーをお願いします」とこちらが食い下がると「わかりました。なんとかやってみましょう」と心強い返事を頂きました。こうして日本国内1号機のVista 5を導入したDサブに続き、またしてもVista 5-42フェーダーが国内1号機として京都にお目見えすることとなりました。

導入してみた

今回の42フェーダー仕様は32フェーダー仕様様の右側に10フェーダーが追加された形で、もちろんワンマンオペレートも可能ですが、この追加された10フェーダーは残りの32フェーダーと独立させてサブ卓的に操作することができ、ツーマンオペレートも可能な設計になってい

ます。現に我々も音響効果の多い生番組で右側の10フェーダーに音響効果系の素材を立ち上げてツーマンオペレートを実施しています。Vista 5の操作性の良さに関しては今さら言うまでもないかも知れませんが、VISTONICS、特にEQとダイナミクスの操作性は群を抜いていると思います。「アナログ人間にも優しいデジタル卓」そんな言葉がVista 5にはぴったりだと思います。ハードの初期不良で一度エマーゼンシー卓に乗り替わった事もありましたが、翌日にはSTUDERの方が東京から駆けつけて対処していただき、そのサポートの早さにも驚いています。

また音声卓の話とは直接関係ないのですが、どうしても触れておきたいのが麻布オーディオ京

都店でカスタマイズしたモニタースピーカーです。f特の良さはもちろん、歪みは0.1%以下を実現、正にモニタースピーカーとしては申し分のない逸品を導入することができ、Vista 5と同じく今回の更新の目玉となっています。

まとめ

紆余曲折ありましたがなんとか11月のデビューを無事に迎え、あれから1年が経ちます。限られた予算の中、大きなトラブルもなく、現時点で最良のシステムが出来上がったと思っています。せっかくのシステムを「宝の持ち腐れ」で終わらせないために、それらを探るオペレーターのスキルアップを今以上に目指していきたいと思っています。